
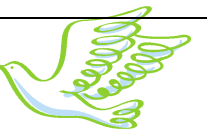
	<p>目指す生徒像</p> <p>自主・敬愛・健康</p> <p>-----</p> <p>自ら学び続ける生徒 豊かな心をもつ生徒 心身をきたえる生徒</p>	<p>令和元年度 第14号 3月11日発行 文責：小野 電話：0224-53-1369 E-mail:kinchu@ ogawara-k.miyagi.jp</p>
---	---	--

 **金ヶ瀬中学校 第73回卒業式 挙行** 
～39名の旅立ち～

3月7日（土）、保護者の皆様に御列席いただき、令和元年度第73回の卒業式を厳粛な雰囲気の中、挙行することができました。

新型コロナウイルス感染症対策として、規模を縮小した形となりましたが、校長先生より卒業生一人一人に卒業証書が手渡され、凜々しい姿で証書を受け取る姿に、これからの前途に固い決意と大きな夢を描いているように感じました。

式 辞

頼母山も春の支度が整ったようです。大高山神社の桜の芽も柔らかくなり、蔵王連峰からの雪解け水が流れ出すのもまもなくです。本日、保護者の皆さまのご隣席のもと、金ヶ瀬中学校 第七十三回卒業式を挙行できますことに心から感謝と御礼を申し上げます。

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

証書を受け取る姿に、新しい世界に飛び立つ喜びと、新しいことに挑戦しようとする希望が感じられ、大変うれしく思います。また、今日久しぶりに、学校に笑顔と笑い声がかえってきました。本当に安心し、うれしく思います。

さて、卒業生は名実ともに学校の顔として、文武両道の活躍を見せ、下級生を力強くリードしてくれました。

～中略～

卒業にあたり、私から二つ、願いを話します。

一つ目は「志をもち、自分で歩みを進められる人になってほしい。」という願いです。志とは、こんな仕事に就きたいとか、何かになりたいとかだけではありません。いつも笑顔でいよう、他人の役に立ちたい、自分がやるべき仕事に誠実に向き合おう、など、人としてどんなふう生きていきたいかという思いや理想、信念をもつこと、と私は考えます。自分の強みや良さを生かしながら、こうありたいという志をもって前へ進んでください。

二つ目は、「当たり前前に感謝できる人になってほしい。」という願いです。今年度、PTA親子バレーボール大会が暑さのため、予選までしかできませんでした。金中祭は台風のため後日祭が延期されました。そして、本日の卒業式も一緒に皆さんの門出を祝おうと思っていた在校生の参加が叶いませんでした。卒業を目前に、学校に登校し勉強し、友達と語らうこともできなくなってしまいました。当たり前ではないんですね。これを身をもって経験した皆さんだからこそ、その時その時を大事にし、私たちが当たり前と思っていることは、実はありがたいことなのだ、周りの全てに感謝できる柔らかい心をもってほしいと思います。

～中略～

お子様は、義務教育九カ年を修了し、青年へと歩み始めます。その歩みが力強いものになりますよう、引き続き、温かく見守り、励まし、支えていただきたいと思います。私も教職員一同、お子様のご成長とご活躍を心から願っております。

結びに、本日の卒業式に向け、卒業生が思い出深く金中を巣立っていけるよう、限られた条件の中で、教職員一同、精一杯準備をしてみました。しかし、内容を変更した形で実施いたしましたことに、御理解と御協力をくださいました卒業生と保護者の皆様に、改めて心から御礼を申し上げます。

名残は尽きませんが、卒業生の限りない前途を祝しますとともに、ご列席くださいました皆様のご健勝をお祈り申し上げ、式辞といたします。

令和二年三月七日

大河原町立金ヶ瀬中学校 校長 大内 恵美



卒業生代表のことば

桜のつぼみもふくらみはじめ、窓から差し込む光が春の訪れを感じさせる今日。私たち三十九名はそれぞれの思いを胸に、新しい道へと旅立つ時を迎えました。

新型コロナウイルスの影響で、卒業式までの一週間を仲間と過ごせなかったのはとても残念に思います。しかし、縮小というかたちにはなってしまいましたが、こうして私たちのために卒業式を挙げていただいたことに卒業生を代表して心から感謝申し上げます。

～中略～

卒業生の皆さん。九年間ずっと一緒だったけれど、いつの間にか時は流れ、今日はもう卒業の日。私はここに立っている今この時でさえ、「卒業」という二文字を実感できません。毎日みんなに会って教室で笑い合えたことが当たり前だと思っていましたが、もういつものようにこの金ヶ瀬中学校で会えなくなってしまいます。あの時間は特別だったのだと改めて思います。これから私たちはそれぞれの道へと歩み始めます。辛いことや壁にぶつかることがあった時には、共に過ごした仲間を思い出しましょう。みんなで笑い合った楽しい日々を思い出し、乗り越えていきましょう。そして、自分が選んだ道を力強く歩んでいきましょう。みんなと出会うことができ、みんなと一緒に過ごすことができ本当に良かった。私はこの三年生の仲間が大好きです。今まで本当に本当にありがとうございました。

最後になりましたが、これからも金ヶ瀬中学校の卒業生としての誇りを持ち、夢に向かって努力し続けることを誓います。私たちのためにすばらしい卒業式を行ってくださった方々に感謝し、皆様の御健康と御多幸をお祈りして卒業生代表のことばとさせていただきます。「さようなら、金ヶ瀬中学校。」

第七十三回卒業生代表 関谷 寧々

送 辞 (卒業のしおりに入れさせていただきました。)

蔵王の雪も溶け始め、吹き抜ける風の柔らかさに春の訪れを感じる頃となりました。この良き日に、3年間の中学校生活を終え、この金ヶ瀬中学校を巣立たれる3年生39名の先輩方、御卒業おめでとうございます。4月からそれぞれの新しい道に第一歩を踏み出される先輩方に、在校生一同、心からお祝い申し上げます。

同じ学舎で共に学び、共に汗を流し、何事にも協力しながら一生懸命に前進してきた先輩方とお別れすることはとても切なく寂しいものです。

私達が入学した時、中学校生活への期待よりも不安が大きかったなか、先輩方は温かく迎えてくださいました。優しく接していただいたおかげで不安が楽しみに変わり、その後の中学校生活を安心して過ごせるようになりました。

～中略～

これから先は、自分の道に向かって一人一人別の道を歩いていくことでしょう。その道は決して楽しいことだけではなく、時には迷ったり壁にぶつかることもあると思います。そんな時は金ヶ瀬中学校で過ごした3年間のことを思い出してください。共に過ごした仲間や先生方、そして私達後輩の笑顔を思い出し、力にしてください。そしていつまでも私達の目標であり、憧れの存在でいてください。今まで本当にありがとうございました。

最後になりましたが、在校生一同、先輩方のこれからの限りない御活躍と御健康を心よりお祈り申し上げ、送辞といたします。

在校生代表 中田 沙良

